

地域包括支援センターの業務負担軽減に向けた取組について

1 概要

- ・ 更なる高齢化の進展によって、要介護や認知症のリスクが高まる後期高齢者が今後も増加していく中で、高齢者を支える地域との関係構築や複雑・多様化する相談業務への対応など、地域包括支援センター（以下「センター」という。）の果たす役割はますます大きくなっている。
- ・ 増大するセンターの業務負担を軽減し、センターの安定的な運営を確保するため、昨年度センター職員に行った実態調査を踏まえ、2に掲げるとおり業務負担軽減に向けた取組を実施する。
- ・ 今後もセンターの業務負担に留意し、効率化・簡素化の観点から必要な見直しを進めていく。

2 業務負担軽減に向けた主な取組

(1) 職員配置基準の見直し（75歳以上人口に応じた職員の加配）【8年度～】

※ 詳細は、資料6「地域包括支援センターの職員配置基準について」のとおり。

| | |
|---------|--|
| 現状・課題 | 要介護認定率が高く、認知症や複雑な健康・生活課題を抱えるケースの多い後期高齢者が増加しており、相談支援等に係る負担が大きい。 |
| 対応策 | 年齢階層の高い高齢者ほど相談対応等に係る負担が大きく、センターの業務量が增大することから、75歳以上人口が一定水準を上回るセンターに3職種を1名増員 |
| 期待される効果 | 職員の増員により運営体制が強化され、職員一人当たりの負担が軽減 |

(2) 提出資料の電子化【8年度～（一部7年度実施）】

| | |
|---------|---|
| 現状・課題 | センターの事業評価に必要な資料について、紙媒体による提出を求めており、資料を印刷、準備し、区役所へ提出することの負担が大きい。 また、センターが各種会議や研修会を開催する際に作成する計画書・報告書も紙媒体による提出を求めており、同様に負担が大きい。 |
| 対応策 | センターの事業評価に当たって提出を求めている各種資料について、7年度実施分（6年度の事業評価）から電子媒体による提出も可能とした。 加えて、各種会議や研修会の計画・報告書についても、原則システム入力による電子提出に変更 |
| 期待される効果 | 資料を印刷、準備し、区役所へ提出する負担が軽減 |

(3) 提出資料の削減、作成資料の簡素化等【8年度～（一部7年度実施）】

| | |
|---------|--|
| 現状・課題 | センターの事業評価を適正に実施するために提出を求めている各種資料の作成や準備に係る負担が大きい。 |
| 対応策 | 提出を求める資料を削減するほか、作成する資料の記載項目も一部削除。 評価に向けた準備作業の効率化のため、センター評価に係る過去の通知や様式を集約・マニュアル化 「生成A I利用に関する留意事項」を作成・周知し、情報漏えいのリスクに留意しつつセンター業務の効率化を後押し |
| 期待される効果 | 資料作成や提出資料の準備に係る負担が軽減 生成A Iの適切な活用による業務効率化により、事務的な負担が軽減 |

(4) 会議のオンライン化【7年度～】

| | |
|---------|--|
| 現状・課題 | 高齢者虐待対応に係る会議など個人情報を取り扱う会議は対面で実施することが多く、区役所への移動に係る負担が大きい。 |
| 対応策 | 個人情報を取り扱う会議であっても、情報漏えいや不正アクセスのリスクに十分配慮した上で、安全かつ効果的に会議が運営できるよう、遵守すべき留意事項を示し、オンラインによる開催を推奨 |
| 期待される効果 | 対面による会議のために区役所へ移動する負担が軽減。対応の迅速化 |

(5) 介護予防ケアマネジメントの簡略化【8年度～】

| | |
|---------|--|
| 現状・課題 | 高齢化の進展により介護予防ケアマネジメントの件数が増加しており、アセスメントやケアプラン作成等に係る負担が大きい。 |
| 対応策 | ケアマネジメントB（対象：短期集中型サービス）について、適切なアセスメントによりケアマネジメントの質は確保しつつ、ケアプラン作成を不要とするほか、サービス担当者会議及びモニタリング実施方法も簡略化 介護予防ケアマネジメントに係るマニュアルを改定（アセスメントシートの記入例の追加等） |
| 期待される効果 | ケアプラン作成等に係る負担が軽減 |

(6) フレイル予防DXの運営支援【7年度～】

| | |
|---------|--|
| 現状・課題 | 機材準備や実施手順が煩雑で、まだノウハウが蓄積されていないこともあり、事業の運営に係る負担が大きい。 |
| 対応策 | フレイル予防DXの取組事例集に、少ない人員で適切に役割分担しながら効率的に実施している好事例や効率化に向けたポイントを追加し、センターに周知 |
| 期待される効果 | 好事例を蓄積・共有し、実践することで業務効率が徐々に向上し、事業運営に係る負担が軽減 |

(7) センターシステムの再構築【10年度～】

| | |
|---------|---|
| 現状・課題 | 総合相談に係る記録やケアプランの作成等に用いる情報システムの操作性や応答性が悪く、事務処理に係る負担が大きい。 |
| 対応策 | 次期システム（令和10年度運用開始予定）を構築する中で、職員にとって使い勝手の良いものとなるよう検討し改善 現行システムにおいては、保守契約の範囲内で対応可能なものは改修を実施（実績入力の実誤操作防止等） |
| 期待される効果 | システムの操作性や応答性が向上し、事務処理に係る負担が軽減 |